

一般質問発言通告書

議席番号 21 番 氏名 川神 裕司

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

- 1 「スポーツ都市宣言」に対する認識と今後の戦略について
 - (1) 「まちづくり」の推進における「スポーツ都市宣言」の意義について
 - ① 陸上競技においては世界に挑戦できる三浦龍司選手というアスリートが誕生したが、多くのスポーツ選手の活躍は浜田市に誇りと元気を与えてくれている。浜田市は平成18年10月1日「スポーツ都市宣言」を制定した。この宣言がスポーツ振興、健康増進にどう活かされているか市長の認識を問う。
 - ② 全国でスポーツ都市宣言を制定している都市は、スポーツを活用して都市計画の推進やまちづくりに取り組むという「スポーツ」をプラットフォームと捉える考えが潮流となっている。プラットフォーム構築推進に対する所見を問う。
 - (2) スポーツ関連施設の今後の整備方針について
 - ① スポーツ振興のためには施設整備は重要な要素となる。現在スポーツ施設は33施設と認識しているが、2017年スポーツ推進審議会の答申を尊重した、公共施設再配置・整備計画推進に対する現在の課題を問う。
 - (3) アスリート育成及び「スポーツ都市」実現のための指導員の拡充について
 - ① アスリート育成等、競技スポーツ強化、都市宣言に謳ってある市民の健康増進や相互交流推進のための、スポーツ普及・啓発を進める日本スポーツ協会公認指導員等、幅広い指導体制の強化が必要と認識しているが所見を問う。
- 2 医療人材の育成と人材還流システムの構築について
 - (1) 今後の医療人材の育成支援強化に対する方針について
 - ① 浜田保健所管内において医師の充足率は84%、看護職員は95.8%と低い。医師を含めた医療関係者に対する奨学金制度の拡充等、様々な支援策は実践されているが、今後のキャリア教育も含めた更なる育成支援の方針を問う。

(2) 浜田准看護学校の支援について

- ① 現在、地域医療の重要な人材育成機関として准看護学校の運営が厳しい状況にあると聞く。ちなみに准看護師の資格取得が可能な学校は現在 132 校で減少中。市内の病院・医院においても准看護学校の卒業生が多く活躍しており浜田准看護学校の存在意義は大きいと認識している。リハビリテーションカレッジ島根、浜田医療センター附属看護学校への運営支援が行われる中、同様に運営支援が必要と考えるが所見を問う。

(3) 医療関係者の U ターン支援システムの構築について

- ① 市外で勤務する医療関係者の中には、地元に戻って働きたいと考えている方がそれなりにいる。そのような方に、どのようなアドバンテージがあれば地元で U ターンして働きたくなるかヒアリングを行い、U ターン支援の仕組み創りを積極的に推進していく考えはないか問う。

3 市民の安全・安心確保のためのリスクマネジメント強化について

(1) 行政事務処理ミス状況と発生防止対策について

- ① 当市も今までシステムエラーや人的事務処理ミス等による市民サービス低下事案が発生してきた。また最近発生した阿武町職員による会計システム操作の誤りで、新型コロナ給付金を二重に振り込んだ事案が発生。浜田市は同様の重大な事務処理ミス発生防止に対するリスクマネジメント強化にどう向き合っているのか、市長の見解を問う。

(2) 「フェーズフリー」導入等、市民の命を守る防災対策の強化について

- ① 近年全国的に線状降水帯による大雨被害や土砂災害等が多発。そのような中、防災には極めて有効とされるハザードマップだが、地域によっては浸水エリアにおいて水位予想が 1m も上回ったケースがあり見直しの必要が指摘された。

最近 NHK では全国の新しいハザードマップを作成し、水没リスクを総点検したとのこと。それによると、全国で 1000 年に 1 度の大雨が起きる次代に突入したと! 6 月 5 日は当市の防災訓練が実践されたが、当市としても水没地域、土砂災害地域、避難所の確認ができるハザードマップの活用は不可欠と考える。ハザードマップの最新データ更新や各世帯での活用状況に関して問う。

- ② 最近災害における備えに対する取組として、フェーズフリーという概念がある。これは、「防災」を特別な事象と考えず、平常時も非常時も同じように活用できる施設やものづくりを進める戦略である。先進的な防災意識であるが、未来を担う子供たちに学校教育の現場で、平常時の防災意識を底上げするためカリキュラムに導入することは有効と考えるが所見を問う。